

熊取町立熊取図書館

図書館活動の点検・評価（平成 22 年度）

1. 点検・評価への取組み . . . 1
2. 自己点検・評価 . . . 3
3. 外部評価（平成 22 年度図書館活動の点検・評価への意見） . . . 10

1. 点検・評価への取組み

熊取図書館では、図書館が地域や住民に貢献できることを目指し、今後 10 年間の熊取図書館が目指す姿についてまとめた「熊取町図書館計画」を平成 19 年 1 月に策定した。

基本方針

1. 図書館は「まちづくり」の情報拠点になります
2. 図書館は「住民との協働」によるサービスをめざします
3. 図書館は「住民の生活を応援」します

平成 19 年度には第 1 次実施計画(H19-H21)を、また平成 21 年度には職員一人ひとりが「これから3年間のサービス」を提案し、全員で話し合いを繰り返しながら長期短期の目標に分け、図書館協議会にもご意見をいただきながら、第2次実施計画(H22-H24)を作成した。

これら計画に基づき、限られた資源(予算・人員)を有効に活用し、より良い図書館サービスを実現していくためには、熊取図書館が「何を目的として(使命)」「どの程度を目指し(目標)」「どれぐらい実現できたのか(結果)」を明らかにしていくことが大切である。平成 20 年に図書館法が改正されたこともふまえ、図書館がどのようなサービスを行っているのか、できるだけ分かりやすく伝えることができるように、図書館活動の点検・評価を行うこととし、平成 22 年度に「図書館活動の点検・評価(21 年度)」をまとめた。

第 7 条の 3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。(図書館法)

本評価(平成 22 年度)については、前回の課題としていた ABCD の 4 段階評価を行うなど見直しを行ったほか、前回外部評価で指摘のあった数値化しにくいサービスについて、できる限り表現するように努めた。

【評価の目的】

より良いサービスの実現

(サービスの改善や向上に結びつく評価(評価のための評価にならないように))

効率的・効果的な運営

(限られた資源(予算・人員)の有効活用、優先順位)

住民との協働による運営

(住民に関心を持ってもらえるような方法、結果だけではなく過程の公開)

【評価の方法】

自己点検: 毎年の実施計画に基づき、サービスの状況を自己評価

外部評価: 客観的な視点を確保するため、図書館協議会から評価・講評を得る

アンケート等: 満足度を調査する方法として、アンケート等を実施する

(平成 22 年度に来館者アンケートを実施 * 今後は3年に1回程度を予定)

公 表: 「図書館活動報告」として統計や行事記録等と併せ印刷発行及びホームページ公開

【評価項目】

図書館で行う事業を実施計画(H22-H24)に基づき下記の5項目に分類し、評価する。

- 1 住民参画による適切な図書館運営
- 2 情報収集の場としての図書館機能の充実
- 3 だれもが読書に親しめる環境づくりの推進
- 4 子どもの読書活動の推進
- 5 多様な学習機会の創出

【目標値】

実施計画において、適切な蔵書の更新と図書館利用の広がりを大きな目標としていることから、開架している図書の新鮮度は、目標値を 8.04% (人口規模別・貸出密度上位 10%の図書館の平均値*平成 21 年)とし、年間有効利用率は長期的な目標として 30%に設定した。それ以外の目標値は、対前年度 10%増を一定の目安として、これまでの実績等を勘案し平成 24 年度の目標値を設定している。「図書館活動への関心の高まり」など数値化しにくいもの、予約冊数など目標の設定自体がそぐわないものについては数値目標を設定していない。

【評価の基準】

実施計画の目標値により、ABCDの4段階で評価を行う。

- A: 計画どおり実施し、目標値を達成した。
- B: 概ね計画通り(8割以上)実施したが、不十分な点や課題が残った。
- C: 不十分な点や課題が多く(8割未満)、計画通り実施できなかった。
- D: 取り組んでいない。

【アンケート】

利用者の満足度を知る方法の一つとして、平成 22 年6月に6年ぶりとなる来館者アンケートを実施した。(アンケート結果は、「図書館活動の点検・評価(平成 21 年度)」に掲載)

平成 23 年度は、シニアサービスの充実に向け、インタビュー等によりシニア層のニーズを探りたいと考えている。

2. 自己点検・評価

評価表1 住民参画による適切な図書館運営

○目標と評価

- (1)住民との協働によるサービスの推進 《平成22年度自己評価:B》
 (2)効率的・効果的な図書館運営 《平成22年度自己評価:A》

○自己点検結果

平成22年度に実施した住民との協働による事業は別紙(P4)のとおりである。図書館で開催する行事等の共催・協力に加えて、新たに町民文化祭への参加をはじめた。平成21年度に開始した地域の憩いの家などでおこなう出前講座も定着しつつあり、より幅広い団体の協力により、事業を実施することができた。子どもの読書環境を支える住民グループ、保育所(園)や学校との連携については、合同研修会を開催し、課題の共有や学習機会の提供を行うことができた。また、図書館資料収集への住民参画を進める「雑誌オーナー制度」を平成23年度から始めるにあたり、平成22年度にオーナーの募集を開始した。図書館協議会においても活発に審議いただいているところであるが、今後も引き続き、住民参画による図書館運営を進めたい。

効率的・効果的な図書館運営については、平成22年度は初めて「図書館活動の点検・評価」を行った。図書館の自己評価を行うとともに、図書館協議会において外部評価を実施し、「図書館活動の点検・評価(21年度)」として公表した。資料費については、町の行政改革プランに基づき計画通り削減しており、雑誌、視聴覚資料の貸出冊数が減少している。雑誌については「雑誌オーナー制度」をPRするとともに、視聴覚資料については利用状況などを勘案し、予算の有効活用を図りたい。

人件費の縮減については、行政改革プランに基づき平成23年4月より職員1名の嘱託員化を行った。研修の充実等により職員の資質向上に努めていきたい。

評価対象事業	計画	評価の指標	平成22年度 取組実績	目標値 (24年度)	平成21年度 取組実績	【参考】
						20年度
(1) 住民との協働によるサービスの推進						
1 住民との協働による事業の実施	協働によるきめ細かなサービスの提供	・実施回数	別紙	よりよい町づくりへの貢献	別紙	—
2 子どもの読書活動を支える体制づくりの推進	連絡協議会、専門部会、連絡会等の開催	・会議実施回数 ・参加人数	11回 194人	子どもの身近な読書環境の充実	9回 106人	7回 118人
3 図書館協議会の開催	図書館サービス向上のための協議、評価を行う	・開催回数 ・検討項目	3回 検討項目*	運営に関する課題の審議、会議内容の分かりやすい公表	5回	3回
(2) 効率的・効果的な図書館運営						
1 図書館活動の点検・評価	より良いサービスの実現を目指す	—	公表した	図書館活動への関心の高まり	未実施(22年度新規)	未実施
2 資料費の抑制	町の行政改革プランに基づき抑制する	・雑誌タイトル数 ・AV資料購入費	・150タイトル ・286千円	・150タイトル ・286千円	・170タイトル ・514千円	・196タイトル ・588千円
3 人件費の縮減	正職員を減員し嘱託員を採用(平成21~26年度)	・職員数・嘱託員数 ・臨時職員数	・8人・2人 ・5.8人	・7人・3人 ・6人	・8人・2人 ・5.8人	・9人・1人 ・5.8人

*協議会検討項目：図書館活動の点検・評価について、雑誌オーナー制度について

資料(評価表1)

平成22年度 熊取図書館における住民との協力、連携、協働事業一覧

1. 催し、講座等

	活動(事業)名	実施日	事業内容	団体名
1	地域出前講座 (タピオ体操など)	通年	地域の公民館等で実施している、健康づくりのための事業。図書館は、紙芝居等の読み語りや図書館の案内を行っている。(全12回・11地区)	くまどりタピオ元気体操ひろめ隊
2	グロトリアン コンサート	6/27 (日)	「グロトリアン・シュタインビッヒ」による恒例のコンサート [ピアノ:大西隆弘氏 オーボエ:大島弥州夫氏]	コンサートボランティア スタッフ
3	シニアコンサート	3/30 (水)	一般に募集するとともに、高齢者サービスの一つとして、毎年町内の全ての福祉関連施設に案内を送付し、図書館から参加を呼びかけている。[出演:かたつむり]	
4	講演会	9/4、3/13	毎年多様なテーマで、くまどり読書友の会との共催による文学講演会を開催している。 [平成22年度講師] 石井宏志氏(9/4「陶芸の話」) 石井松夫氏(3/13「ことばと心」)	くまどり読書友の会
5	図書館俳句展	10月-11月	国民読書年を記念し、坪内稔典氏講演会と連動して、俳句作品を公募し図書館で活動する俳句グループが選者となり、優秀作を選び展示	くまどり句会 こぶし(くまどり読書友の会)
6	かがくあそび「色で遊ぼう」	7/11 (日)	平成22年度子どもゆめ基金助成事業[講師:高松泰子氏] 図書館は、テーマに応じた本の展示やPRを支援。	
7	講演会	5/20、 9/16、2/3	平成22年度子どもゆめ基金助成事業 図書館は、テーマに応じた本の展示やPRを支援。 [平成22年度講師] 秋本美津氏(5/20「イギリスの絵本の歴史」) 川端有子氏(9/16「少女小説の名脇役たち」) 渡辺有里子氏(2/3「学校図書館を知的創造の広場へ」)	熊取文庫連絡協議会
8	絵本ライブ	11/20 (土)	長谷川義史氏の絵本ライブ開催の際、受付等のイベント開催協力	
9	手づくり会	8/20 (金)	紙やストローを使ったおもちゃ作り	シルバーアドバイザー 泉州南
10	町民文化祭	11/6・7	町民文化祭で、図書館でも各種事業を開催。絵本の読み語り、おはなし会、おりがみ遊びなど	熊取町文化振興連絡協議会/熊取文庫連絡協議会/大阪観光大学学生サークル「猫の手」
11	文学講座	通年	和歌、短歌、俳句、朗読、読書会など多様なテーマで講座を開催し、読書活動の振興や図書館利用の促進を行っている。図書館は本の貸出しやPRを支援している。	くまどり読書友の会
12	子どもの本の会	通年	絵本や児童文学、ストーリーテリングを学ぶ大人対象の講座を開催している。図書館は、本の貸出しや資料相談に応じている。	熊取文庫連絡協議会

2. 子どもの読書環境の整備

13	熊取町子ども読書活動推進連絡協議会・専門部会	合計11回 開催	子どもと本に関わる住民団体、保育所(園)、幼稚園、小・中学校、関係課、図書館のネットワークづくりを進め、情報交換や学習機会の提供を行う。「第2次子ども読書活動推進計画」に基づき、各種部会や研修会を行った。	文庫連/くまどり子育てWA・輪・和/たんぼの会/くまどりランド/熊取こどもとおとなのネットワーク/熊取町こども会育成連絡協議会
14	ブックスタート	月1回	図書館、健康課、文庫連が連携し平成14年度から実施。4か月児健診において保護者への個別案内を行い絵本を手渡す。	
15	あかちゃんの時間 (0歳児・1歳児)	月1回 月1回	親子のコミュニケーションを深めることができるように、絵本やわらべうた等を楽しむ。毎回、文庫連担当者と図書館がプログラムの内容を検討する時間を設け、内容を工夫している。	
16	乳幼児健診での図書館案内	月1回 月1回	1歳7か月児健診は文庫連が、3歳6か月児健診は図書館が健診の場に出向き、図書館の案内や絵本ガイドの配布を行っている。	熊取文庫連絡協議会
17	おはなしキャラバン	通年	文庫連が保・小・中の子どもたちにおはなしを届けている。図書館は本の貸出しや小・中学校で使用した図書の返却運搬を支援。	
18	家庭・地域文庫	通年	自宅や地域の憩いの家等町内5か所で、本の貸出や読み聞かせ等子どもが本に親しむ取組みを行っている。図書館は本の貸出等を支援している。	

3. 図書館資料の作成等

19	さわる絵本の作成	月1回	視覚に障がいのある子どもが、手で触れて内容を理解できるように工夫した布絵本を作成している。図書館が絵本を選んで作成を依頼したり、著作権の手続きを支援している。	さわる絵本(熊取町社会福祉協議会)
20	点字図書作成	読書活動 推進	町広報紙やさまざまな本の点字図書を制作し、図書館に寄贈している。図書館が本を選んで作成を依頼したり、利用者に点字の読み方も教えてもらっている。	点訳サークルととろ、 点訳サークルブレイル (熊取町社会福祉協議会)
21	布絵本の製作	月1回	乳幼児から障がいのある子どもまで、幅広く楽しむことができる布絵本を製作している。(図書館・保育所等、町内の施設に寄贈予定)	いちごの会 (布絵本製作ボランティア)
22	図書の修理	月1回	図書館で、読み疲れ等によりページが外れたり破れたりした本の修理を行う。	しゅうり工房(くまどり読書友の会)
23	健康コーナー掲示	随時	図書館に設置した「健康コーナー」において、住民に役立つ健康情報や活動内容を掲示している。	健康くまどり探検隊 熊取町食生活改善推進協議会
24	本のリサイクル	5/28・29 11/6・7	図書館で不要になった本のリサイクルフェアを年2回開催。収益は学校図書館の図書費として寄附している。	くまどりタピオ元気体操ひろめ隊 リサイクルブック実行委員会
25	だんじり写真展	11月	だんじりの写真の募集と展示。22年度は熊取町青年団の協力を得て、各支部長賞などの選出を行った(受賞作品は、翌年度のだんじり新聞に掲載)。	熊取町青年団

評価表2 情報収集の場としての図書館機能の充実

○目標

- (1) 利用者の拡大～図書館の役割を伝える・拡げる取組み 《平成 22 年度自己評価:C》
- (2) 新鮮で魅力的な蔵書 《平成 22 年度自己評価:B》
- (3) 的確な資料・情報の提供 《平成 22 年度自己評価:B》

○自己点検結果

平成 22 年度は、国民読書年のPRや多彩な行事を開催するなど、利用の拡大に向けた取組みを行ったが、住民の年間有効利用率(図書館で年間に1回以上資料を借りた人の割合)は微減となった。来館者アンケートによれば、図書館の総合的な満足度は「非常に満足」「やや満足」をあわせると 87%と概ね高評価であり、職員の対応についても77.6%が満足との回答であった。また、1日の来館者数を調査したところ、貸出人数の 1.5～1.7 倍の来館者があり、滞在型の利用が増えていることがわかった。貸出は重要な指標の一つであるが、統計上反映されない利用についても、ていねいにニーズを捉えていく必要がある。また、来館者アンケートで認知度の低かったホームページについては大幅にリニューアルした。

蔵書については、開架蔵書新鮮度の目標を定め、平成 22 年度から図書費を増額したことにより、計画的な蔵書更新が行えるようになった。住民の多様な要求に応え、公立図書館としての役割を果たしていくため、適正な蔵書構成を維持していきたい。また書庫資料の有効活用を図るためのテーマ展示も重点的に行った。

的確な資料・情報の提供については、新たに「スキルアップコーナー(資格・就職・学校ガイド)」を設置した。来館者アンケートによれば、行政情報や健康情報など、これまで取り組んできた課題解決型のコーナーについての利用度はまだ低く、PRが今後の課題と考えられる。また、平成 22 年度は図書館蔵書管理システム機器の更新を行い、同時にインターネットからの予約サービス機能の強化を行った。インターネットでの予約は急増しており、予約機能の充実と予約制限冊数の緩和が大きく影響していると考えられる。庁内への行政情報の提供については、発行していた「仕事に役立つ新刊案内」に加え、行政情報などを中心にした新聞の記事情報の提供を新たに開始し、好評である。

評価対象事業	計 画	評価の指標	平成22年度 取組実績	目標値 (24年度)	平成21年度 取組実績	【 参 考 】
						20年度
(1) 利用者の拡大						
1 利用者の拡大	より多くの住民に利用してもらえる図書館を目指す	・年間有効利用率	20.5%	30%	20.9%	21.3%
2 職員の対応	対応についての満足度向上	・来館者アンケート	77.6%	80%	未調査(22年度実施)	—
(2) 新鮮で魅力的な蔵書						
1 資料の収集	新鮮な蔵書構成の維持	・開架蔵書新鮮度	7.86	8.04	6.44	6.02
2 蔵書の有効活用	書庫資料を含め、より多くの資料を利用してもらう	・テーマ展示回数 ・書庫出し冊数	178回 20,240点	維持	131回 23,977点	114回 24,753点
(3) 的確な資料・情報の提供						
1 資料の貸出	個人貸出点数の増加	・住民1人あたり個人貸出点数	7.6冊	8.5冊	7.7冊	7.65冊
2 予約サービス	インターネット予約の拡充	・インターネット予約件数 ・パスワード発行件数	12,779件 764件	—	10,248件 1,037件	7,827件 297件
3 他図書館との連携	相互貸借の円滑な実施	・借受冊数 ・他館への貸出冊数	1,743冊 234冊	—	2,037冊 182冊	2,060冊 54冊
4 行政情報提供	住民へのわかりやすい情報提供 庁内への情報提供	・利用率(来館者アンケート) ・情報提供回数	22.8% 210回	48% 120回	未調査(22年度実施) ・12回	未調査 12回
5 課題解決の支援	健康情報の提供	・利用率(来館者アンケート) ・蔵書冊数	34.3% 3,722冊	65% 維持	未調査(22年度実施) 3,329冊	未調査 3,163冊

評価表3 だれもが読書に親しめる環境づくりの推進

○目標

- (1) YA(ヤングアダルト)サービスの充実《平成22年度自己評価:B》
- (2) シニアサービスの充実《平成22年度自己評価:A》
- (3) 障がいのある方へのサービスの充実《平成22年度自己評価:B》

○自己点検結果

YA世代(中高校生)へのサービスについては、平成22年度に中学生を対象とした雑誌アンケートを実施し、人気のあった雑誌3誌を新たに図書館資料として購入を開始した。特集展示の充実や中学校図書館でのPRも行い、YA世代の有効利用率は上昇に転じている。今後も図書館を身近な存在に感じてもらえるように工夫したい。

シニア世代へのサービスについては、町内で活躍する健康づくりグループとの連携を中心とした出前講座の依頼が増えた。紙芝居などを楽しんでもらうとともに、図書館サービスをPRする機会として、平成23年度も引き続き実施していきたい。

障がいのある方へのサービスについては、布絵本を製作する講習会を実施し、新たにボランティアグループが発足した。完成後は図書館をはじめ町内の施設で活用することとしており、平成23年度は活用方法についての研修会等も開催していきたい。また、点字図書やさわる絵本の貸出を行うとともに、宅配サービス及び対面朗読を引き続き実施し、定期的に広報紙に掲載したほか、民生委員研修会等においてもPRに努めた。

評価対象事業	計 画	評価の指標	平成22年度 取組実績	目標値 (24年度)	平成21年度 取組実績	【 参 考 】
						20年度
(1) YA(ヤングアダルト)サービスの充実						
1 魅力的な図書の 収集	学校図書館との連携、アンケート等により読書傾向把握	・YA世代年間有効利用率	22.1%	23%	20.9%	22.1%
2 読書案内	新着図書などの紹介を工夫し利用につなげる。	・新刊案内発行回数 ・本の紹介POP冊数	6回 15冊	6回 60冊	6回 未(22年新規)	未実施
(2) シニアサービスの充実						
1 計画的な資料収 集	大活字本、録音図書等の貸出	・大活字本所蔵冊数 ・録音図書所蔵冊数	1,279冊 348点	1,200冊 500点	1,040冊 353点	961冊 447点
2 地域出前講座	住民との協働による講座開催	・開催回数 ・参加者数	13回 432人	図書館活動への関心の高まり	7回 未統計	未実施
3 施設へのサービ ス	団体貸出、コンサート招待	・貸出団体数、冊数 ・行事参加者数	8施設、329冊 20人	維持	9施設、486冊 27人	8施設、343冊 13人
(3) 障がいのある方へのサービスの充実						
1 宅配サービス	広くPRし、利用者の拡大に繋げる。	・貸出冊数	16冊	—	20冊	2冊
2 対面朗読	広くPRし、利用者の拡大に繋げる。	・実施回数	33回	—	44回	59回

評価表4 子どもの読書活動の推進

○目標

- (1) 子どもと本をつなぐ大人の育成・支援 《平成 22 年度自己評価:B》
- (2) 乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大 《平成 22 年度自己評価:A》
- (3) 学校図書館支援センターとしての機能の充実 《平成 22 年度自己評価:B》
- (4) 障がいのある子どもの読書環境の整備 《平成 22 年度自己評価:C》

○自己点検結果

子どもと本をつなぐ大人の育成・支援については、ボランティア入門講座を初めて開催した。新規参加者が少なく、すでに各施設等で活動している方のスキルアップの機会となったため、平成 23 年度は参加しやすい日程・内容の検討が課題である。

乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大については、保育所(園)・幼稚園への定期的な本の配達を試験的に実施した(平成 23 年度から「絵本こぐま便」として季節ごとの配達を開始)。地域での出前講座も依頼が増え、身近な場所で本と楽しく出会うための取組みを進めることができた。

学校図書館の支援については、計画に基づき、小学校と中学校の各 1 校に出向き、学校と連携し除籍作業やレイアウトの見直しなどを支援した。実施後の学校図書館は使いやすさが向上したと好評である。平成 23 年度も引き続き、小学校 2 校の支援を行う予定である。

障がいのある子どもの読書環境の整備については、「熊取町第 2 次子ども読書活動推進計画」策定時に要望のあった、見学会を休館日に開催する事業を開始したが、平成 22 年度は利用がなかった。布絵本の活用を図るとともに、引き続き必要なサービスを検討していきたい。

また、平成 22 年度は地域ぐるみの子どもの読書活動推進事業(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の事業採択を受け読書推進事業を行った(資料2)。作家による小学校への出前授業やシンポジウム、研修会などさまざまな事業を行うことができ、子どもの読書活動推進のための契機となった。

評価対象事業	計画	評価の指標	平成22年度 取組実績	目標値 (24年度)	平成21年度 取組実績	【 参 考 】	
						20年度	
(1) 子どもと本をつなぐ大人の育成・支援							
1	新刊や研修機会等の情報提供	関係団体、施設への情報提供	・提供先件数	20施設 7団体	20施設(全保幼小中)10団体	20施設 7団体	19施設
2	ボランティアの育成・支援	子どもと本をつなぐ役割を担うボランティアの育成	・講座参加人数	34人	新規活動者の増加	未実施(22年度新規)	未実施
(2) 乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大							
1	利用の拡大	子ども(乳幼児・幼児期)の利用の増加	・年間有効利用率(乳幼児・幼児)	28.8%	30%	27.7%	29.5%
2	子育て支援講座の開催	図書館及び地域での講座開催	・館実施回数、人数 ・地域 "	34回、920人 7回	維持 6回	32回、824人 1回	33回、889人 未実施
3	図書館訪問、団体貸出	保育所(園) 幼稚園からの訪問、団体貸出の増加	・訪問施設数 ・団体貸出冊数	10施設 3,966冊	8施設 3,600冊	3施設 3,430冊	3施設 3,533冊
4	団体貸出	地域の文庫、子育て支援関係講座等への団体貸出	・団体数 ・貸出冊数	7団体 1,830冊	10団体 3,000冊	7団体 2,272冊	5団体 1,589冊
(3) 学校図書館支援センターとしての機能の充実							
1	学校図書館への資料提供	連絡便を活用し迅速な資料提供を行う	・貸出冊数 ・予約件数	9,946冊 1,659件	維持	9,915冊 1,956件	10,328冊 2,659件
2	学校図書館資料の除籍支援	計画的に除籍を行えるよう支援する	・実施校数	1小学校 1中学校	4小学校 2中学校	未実施(22年度新規)	未実施
3	利用の拡大	子ども(学齢期)の利用の増加	・年間有効利用率(小学生)	47.4%	50%	49.8%	48.6%
(4) 障がいのある子どもの読書環境の整備							
1	子どもが本と出会う機会の充実	図書館に来館する機会の充実	・実施回数	1回	5回	1回	2回

地域ぐるみの子ども読書活動推進事業

独立行政法人国立青少年教育振興機構の採択を受け、読書活動を行う町内の読書団体、学校、図書館等が連携し、地域ぐるみで子どもの読書活動の推進を図る事業を実施しました。

実行委員会:熊取町子ども読書活動推進連絡協議会

行事名	実施回数	参加人数	内容	講師等	開催日
出前授業	2	-	駒形克己氏によるワークショップ (中央小5年生、南小6年生)	駒形克己 (造本作家)	10月19日(火)
出前授業	3	-	杉山亮氏による「ものがたりライブ」 (東小5・6年生、西小4・5年生、北小5年生)	杉山亮 (児童文学作家)	11月9日(火)
熊取町子ども読書推進 シンポジウム	1	172人	第1部:基調講演「本はたからもの」	中川李枝子 (児童文学作家)	1月23日(日)
			第2部:パネルディスカッション 「子どもが本と出会うとき」	コーディネーター: 稲垣房子 (奈良大学教授) パネリスト: 北本俊二 (立教大学教授) 小堀貴亮 (大阪観光大学講師) はまのゆか (イラストレーター)	
布の絵本制作講習会	1	19人	バリアフリー 絵本である「布の絵本」の製作	渡辺順子 (すずらん文庫主宰)	1月27日(木)
研修会	2	47人	「子どもと楽しむアニメーション」	脇谷邦子 (同志社大学非常勤講師)	10月7日(木) 10月29日(金)

評価表5 多様な学習機会の創出

○目標

- (1) 文化講演会等の開催 《平成 22 年度自己評価:A》
- (2) 住民団体等の活動の支援 《平成 22 年度自己評価:B》

○自己評価

文化講演会等の開催については、平成 24 年度の目標値は維持としているものの、平成 22 年度は国民読書年にちなみ、俳句講演会と連動した俳句の公募・展示や、熊取町文化振興財団との共催事業の実施、また「平成 22 年度地域ぐるみの子ども読書活動推進事業」により大人を対象とする多彩な行事を開催し、多くの参加者があった。平成 23 年度は事業開催数は減るものの、多くの団体と連携しながら、事業を実施していきたい。

会議室やホールの活用については、平成 21 度に使用時間を区分制にするなど利便性を高めるため規定を定めたが、平成 22 年度については、利用率が若干向上した。さらに利用の促進に努めたい。町内で活動する団体の会報等については「くまどりコーナー」に設置しており、住民に分かりやすく提供できるように配置方法を工夫した。町では、平成 22 年3月に「熊取町協働憲章」を策定し“協働によるまちづくり”を進めることとしており、図書館では、住民等が活動しやすい基盤整備の一環として、町内で活動する団体の情報提供の推進や気軽な情報交換の場となるよう、今後も住民とともに取り組んでいきたい。

評価対象事業	計 画	評価の指標	平成22年度 取組実績	目標値 (24年度)	平成21年度 取組実績	【 参 考 】
						20年度
(1)文化講演会等の開催						
1 講演会、講座等の開催（大人対象）	住民の興味・関心に応じ、利用を促進する講演会等の開催	・実施回数 ・参加者数	10回 599人	維持	7回 294人	8回 448人
(2)住民団体等の活動の支援						
1 会議室の提供	地域活動の活性化に寄与	・利用団体数 ・稼働率	30団体 30.6%	40団体 30%	27団体 28.1%	29団体 未統計
2 資料・情報の収集、提供	住民団体等の活動内容を把握し分かりやすく提供する	・収集団体数	47団体	60団体	41団体	未統計

3. 外部評価(平成 22 年度図書館活動の点検・評価への意見)

平成 23年9月
熊取町図書館協議会

総合評価

「図書館法第7条の3」に示されるように、図書館運営については、評価を行い、運営を進めていくこととされている。熊取町立図書館では、平成 19 年 1 月策定の「熊取町図書館計画」に基づき、3カ年の実績を職員一人ひとりが検証し、今後のサービスを提案することから出発した。平成 21 年度はその初年度として、図書館が「実施計画」を自己点検評価した。図書館協議会はそのまとめ方についても論議を重ねた上で、外部評価をおこなった。平成 22 年度分の評価はそのスタイルを継承しながら、評価を積み重ねて、前進していきたい。

<ホームページのリニューアル>

懸案であった図書館ホームページのリニューアルが行われた。図書館に高い情報発信が求められる現代において、利用者が使いやすい双方向のホームページの運営は欠かせない。図書館の発行する各種統計など基本情報から「熊取町図書館計画」や「熊取町第2次子ども読書活動推進計画」等、図書館が住民とともに作り上げてきた重要な資料が分かりやすい形で WEB 上に提供され、なによりの情報発信となった。全国的にも注目される町立図書館のひとつとして、重要なポイントとなる。

<専門職としての司書の存在>

・熊取図書館の図書館員の専門性の高さは、開館以来担当職務の検証を常に行いながら、新しいサービスの展開については職員研修を行った上であたるなど、サービスの見直しや様々な分野についての専門性を発揮してきたことに顕著に表れている。

<認定司書館長の存在>

・この度、藤井亜希子館長が日本図書館協会の**認定司書**を取得した。図書館員の専門性と言っても、なかなか目に見えにくいものであるが、今回の藤井館長の「認定司書」取得は熊取町立熊取図書館の専門職集団のリーダーとして、その能力が全国レベルと評価されたものと考えている。

(『図書館雑誌』2011 年 7 月号 vol.105 no.7 より)

自治体の図書館行政には司書の高い専門性が求められる。日本図書館協会では以前より「**認定司書制度**」を検討してきたが、平成 22 年によろやく第1回の審査が行われた。全国から 54 名の申請があり、厳正な書類審査の上 37 名が認定されたが、そのひとりが熊取町立図書館長である。日本図書館協会の**認定司書**とは“司書の専門性の向上に不可欠な図書館の事務経験並びに実践的知識及び技能を継続的に修得した者を協会が評価し、公共図書館及び私立図書館の経営の中核を担う司書として公的に認定するために実施する。”(認定司書審査規定第2条)というもので、審査会は図書館の専門家とともに、地方自治・地方行政の専門家として前三重県知事北川正恭氏も加わっている。37 名の認定者は比較的大規模図書館所属の職員が多い中、町立図書館からは 2 名が認定された。

個別評価

外部評価表1

評価表1 住民参画による適切な図書館運営		
評価対象事業	自己評価	外部評価
(1) 住民との協働によるサービスの推進	B	A
(2) 効率的・効果的な図書館運営	A	A
<p>【意見】</p> <p>(1) 住民との協働によるサービスの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成22年3月策定の「熊取町協働憲章」にもとづき、行政と住民の協働を進めてもらいたい。 町立図書館は、図書館建設準備段階から住民との協働で進められてきた経緯がある。協働の在り方としては憲章の策定以前から、町の協働のモデルとして評価できるものである。 平成22年度は、住民との協働による事業の推進として、町民文化祭への参加を始めた。地域ぐるみの活動と評価できる。 <p>(2) 効率的・効果的な図書館運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館にとって資料費の削減は直接住民サービスの低下になり、図書館の魅力を削ぐことになる。その中で「雑誌オーナー制度」をPRするなど、工夫を重ねている。 「行政改革プラン」に基づき平成23年4月より職員1名の嘱託員化を行った。図書館の評価を行う際も正規職員の適正な配置は住民サービスにとって重要な要素と考えている。今後も図書館が住民サービスを遂行していくためにも、正規職員の減員は望ましくない。 開館以来正規職員の採用がなく、継続的な図書館運営に支障をきたしかねない状態である。 嘱託職員を含めた職員集団の充実を望みたい。 熊取町立図書館は開館以来、専門職としての司書集団が図書館の運営を支えてきた。このことは司書養成課程の教科書にも事例が紹介されるほど評価が高い（「児童サービス論 [JLA 図書館情報学テキストシリーズ⑩] 新訂版」堀川照代編著・日本図書館協会、p100）。住民とともに築いてきたことを大切にしたい。 		

評価表2 情報収集の場としての図書館機能の充実		
評価対象事業	自己評価	外部評価
(1)利用者の拡大	C	B
(2)新鮮で魅力的な蔵書	B	B
(3)的確な資料・情報の提供	B	B
<p>【意見】</p> <p>(1)利用者の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館を貸出冊数で評価する時代は終わっている。館内利用の増加、レファレンスなど、貸出以外の利用が増えており、別の指標であらわすことはできないか。またそのことを広く住民へ認知させるとともに評価に反映させる方法を検討してもらいたい。 ・来館者アンケートや一日の入館者数の統計からも、滞在型(図書館という空間で過ごす時間)の図書館の重要性が見えてきた。今後ますます滞在型の利用者は増えていくと思われる。こういった利用者を、図書館の機能を使って楽しむ住民として内外に認知していってもらいたい。 <p>(2)新鮮で魅力的な蔵書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を8.04%とし、平成22年度には7.86%へと目標値に近づいたのは大いに評価できる。利用者にとって、資料の充実は何よりうれしい。必要な資料の確保については引き続き努力願いたい。 <p>(3)的確な資料・情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上の蔵書検索と予約は数年前から実施されていたが、ホームページリニューアルにより、格段に使い易くなった。予約件数は増加しているので、作業量が多くなっていると思われる。その分利用者として図書館の機能がより利用しやすくなっている。 ・インターネット予約の伸びを評価する(パスワードの発行数については、発行が行きわたったのち、減少するものと考えられる)。また行政情報の提供、問題解決の支援の伸びを評価し、(3)の評価はAに値する。 ・毎月の企画展示やテーマ本など工夫がされている。写真公募展など住民が参加できる場が広がってきた。 ・住民コーナーの充実が図られ、情報センターとしての役割を果たしてきているが、さらに各部署との連携による情報の共有を図ってもらいたい。 ・役場の各部署の仕事が住民の目に届くようなコーナーづくりをしていってもらいたい。 		

評価表3 だれもが読書に親しめる環境づくりの推進		
評価対象事業	自己評価	外部評価
(1) YAサービスの充実	B	B
(2) シニアサービスの充実	A	B
(3) 障がいのある方へのサービスの充実	B	B
<p>【意見】</p> <p>(1) YAサービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YA サービスはその世代の要求を的確にとらえるのが難しい。熊取では学校との連携の中で少しずつ要求を探っていく方法と共に、「雑誌アンケート」のように直接リクエストをくみ上げる形で実現している。 ・公共図書館の YA サービスは利用者のニーズをとらえにくいものであり、熊取では学校図書館の司書配置に伴い、より利用者(子ども)の身近なところでニーズをとらえ、サービスが行われるよう、学校図書館への様々な支援が行われていることを評価したい。 <p>(2) シニアサービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアサービスについて、来館している高齢者のサービスについて指標にあらわれていないが、多くのシニアの利用者が毎日開館時間を待って利用している。高齢化を迎えた現在、これからはより滞在型の図書館へと変化することが見込まれる。利用者に対応した資料の充実が望まれる。 ・出前講座については、単なるイベントにならないよう目的を明確に取り組んでいく必要がある。図書館職員が出向く以上、そこに図書館利用につながる工夫が必要ではないか。 <p>(3) 障がいのある方へのサービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館のバリアフリー環境はある程度整備されているので、今後は、さまざまな障がいのある方たちにも図書館に来てもらえるように、その方々にもしっかりと届くような方法で図書館の存在をもっとアピールしていくことが求められると思う。 ・障がいのある方を含め、高齢者や子どもたちなどすべての人にとって使いやすい環境づくりに配慮していく必要がある。 ・「布絵本を製作する講習会」の実施は、製作者には作品をじっくり仕上げる楽しさと、子ども達にはさまざまな読書形態を楽しめる機会を提供できる。その活用は時間をかけて取り組んで欲しい。 ・布の絵本について、本の専門家である司書が積極的に関わって作っていることに意義がある。 		

評価表4 子どもの読書活動の推進		
評価対象事業	自己評価	外部評価
(1)子どもと本をつなぐ大人の育成・支援	B	B
(2)乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大	A	A
(3)学校図書館支援センターとしての機能の充実	B	A
(4)障がいのある子どもの読書環境の整備	C	B
<p>【意見】</p> <p>(1)子どもと本をつなぐ大人の育成・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「熊取町第2次子ども読書活動推進計画」に示されている工程によって各部門で成果を上げている。ボランティア入門講座の参加はより広く呼び掛けてもらいたい。 ・熊取では、図書館開館以前から住民の活動があり、図書館と協働という形で事業に取り組んでいる。しかし、住民の活動はあくまで住民の意思によって行われるものであり、行政（図書館）が大人の育成を行うことには異論がある。子どもの読書の充実についての共通の目的があって、それぞれの役割を明確にしなが、初めて協働が成り立つものである。協働の真の意味がそこにある。地域で活動している住民組織の把握とともに、地域のニーズにあった支援をしていくことが必要である。 <p>(3)学校図書館支援センターとしての機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく始まった学校図書館の計画的な整備支援は、大きな効果をあげている。 ・町の全小中学校での学校図書館活動が町立図書館の様々な支援の中で活発に行われていることは評価できるが、具体的な事例も紹介して欲しい。 <p>(4)障がいのある子どもの読書環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子どもの読書環境の整備について、指標が十分でない。間接的な支援についても取組みを表現するべき。 ・障がいのある子どもへのサービスは、すぐに成果が目に見えるものではないので、地道に続けて欲しい。 ・障がいのある子どもの療育施設などの専門機関と連携をとって、図書館が障がいのある子どもの成長にどのように関わっていけるのか、学習し検討していくことが必要でないか。 ・障がいのある子どもへのサービスには、個々の障がいに対する細かな対応が必要であることから、今の職員体制では難しいものがある。本格的な実施には専任の職員配置が必要である。現状では、各学校及び幼児期の受け入れ施設の専門家との連携や住民の活動を支援するための資料の充実と職員研修が必要である。 		

評価表5 多様な学習機会の創出		
評価対象事業	自己評価	外部評価
(1)文化講演会等の開催	A	A
(2)住民団体等の活動の支援	B	B
【意見】		
(1)文化講演会等の開催		
<ul style="list-style-type: none"> ・「平成 22 年度地域ぐるみの子ども読書活動推進事業」は作家の出前授業やバリアフリー布絵本製作講習会、中川李枝子さんの基調講演とパネルディスカッション等、多彩な事業で地域とつながることができた。子どもの読書を核に多くの大人とつながることができた。 ・住民との協働により、多くの事業を展開している。 ・評価対象にはないが、団体だけではなく個人利用者に対する取り組みがあってもいい。 		
(2)住民団体等の活動の支援		
<ul style="list-style-type: none"> ・会議室については、現在住民主催事業が中心だが、図書館主催講座を活発にする必要がある。 ・各自が趣味や研究に取り組んだことを発表する場にできないか。たとえば、桜の写真展など毎年同じ展示ではなく、今年のテーマを決めての募集や、投稿者に、より踏み込んだ領域の写真展を開催するなど趣味の枠を広げていく工夫が必要であろう。(鳥の写真展は秀作も多く熊取の自然に親しむ機会を作った。その点で幅を広げた良い取り組みであった) ・子どもの夏休みの絵本紹介に対し、秋の読書週間に大人の利用者お勧めの一冊にコメントを記入してもらい紹介するコーナーなどあってもよい。また、図書館を利用してこんなことに取り組みましたなど、大々的ではなく小さな取組みから始めてもよいのではないか。 		